

山葵とオナシカワゲラ

オナシカワゲラ科 幼虫時代を水中で過ごす水生昆虫で日本には次のものが生息するとされる。

フサオナシカワゲラ属 <i>Amphinemura</i>	15 種以上
オナシカワゲラ属 <i>Nemoura</i>	30種以上
ユビオナシカワゲラ属 <i>Protonemura</i>	12 種以上
インドオナシカワゲラ族 <i>Indonemoura</i>	1種

まだ種名が定まらない種類も多く、貴方が新種を見つける可能性があるかもしれない。

1. 山葵栽培を邪魔するもの

ところで、山葵の栽培には最低でも3種類以上の生き物による被害がある。一つはスジグロシロチョウの幼虫アオムシによる葉の食害が成育の妨げになることである。スジグロシロチョウは古くから日本に住み着いていたものだが、アブラナ科の山葵栽培蛾が始まって食草が豊富になったこと、そこが木陰で生息に最適地であったことから増えたのだろうか？そのうちに天敵が現れて適正数になればよいが・・・



天敵と言えば、天敵がいなくなったために生息数が適正数の10倍以上に増えてしまったものに鹿がいる。面白くないことに、この鹿も山葵栽培の障害である。山葵沢の中に入って山葵の葉を食害するだけでなく馬のようなひずめで山葵を蹴って歩くので製品にならなくなる。圃場の中に入らないように鹿柵を廻してあるのだがどこからか抜け穴を探しては中に入って、わざわざ山葵以外の雑草を食べている。迷惑千万な鹿である。岡の田畑でも人間が耕作しているものを好んで食べるのであるから小憎らしい。



3番目は体長数ミリしかない水生昆虫の「オナシカワゲラ幼虫」である。水に浸かっている山葵の葉はおろか山葵本体まで群れになって食害を与えるので、生育の妨げはおろか商品価値も台無しにしてしまう。

対策として、塩ビのパイプを切り落としたような短菅の中に苗を植えつけるが、もともと水の中が好きで山葵は苗を植えたときの根付きと成長がおそくなるのである。





パイプの中に植えられた山葵と山葵の花(アブラナ科の特徴である十字型の花弁)

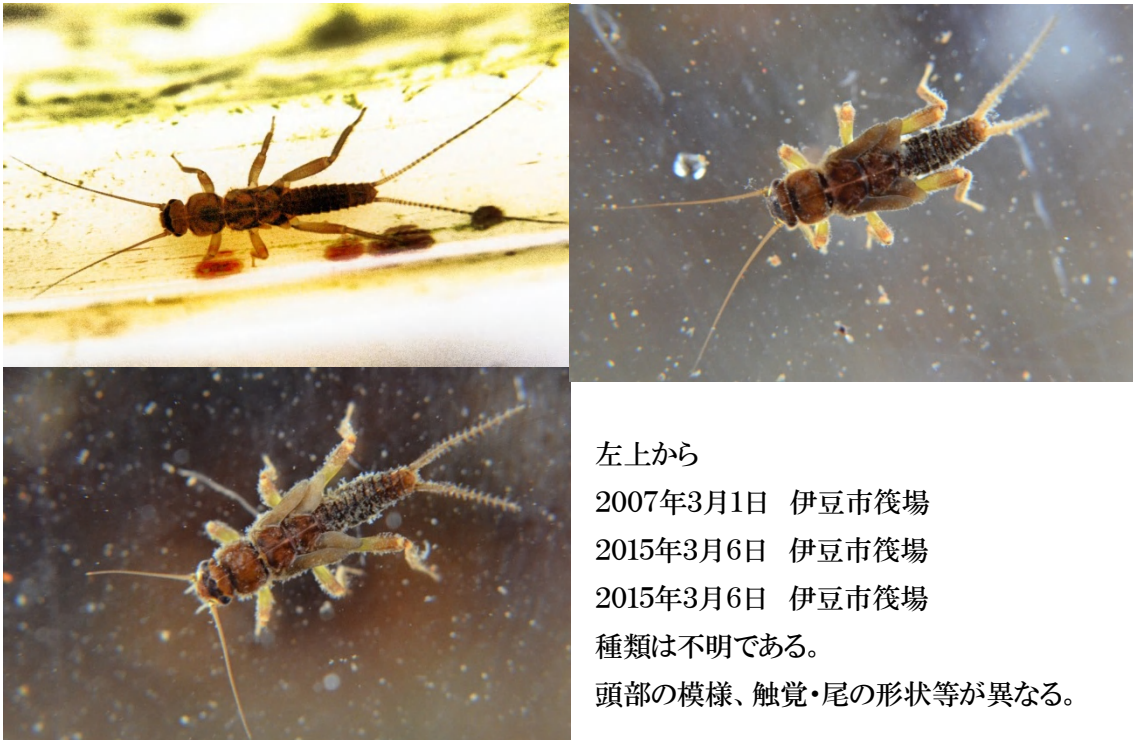
2. オナシカワゲラ

カワゲラの成虫は種類によって大小や翅脈の違いはあるが殆ど同じ形状をしている。カワゲラ自体個体数が多いのでごく普通に見かける昆虫である。幼虫をわざわざ見たことのある人はあまりいないであろうが、一般に幼虫の方が種類の差があらわれる。右写真はオナシカワゲラ属(種は不明)成虫の写真。



カワゲラの起源は約2億4700万年前(二畳紀)に出現し、日本では9科170種以上いると言われている不完全変態の昆虫である。幼虫と成虫の関係が判明しているのはその1/3にも満たない。これが前述の貴方が新種の発見を出来るかもしれない所以である。

この辺りに何種類のオナシカワゲラがいるのか(肉眼では全部同じに見えるので)分からないが写真に撮って拡大すると違いが見えてくる。種の数はまだ増えると考える。



左上から

2007年3月1日 伊豆市筏場

2015年3月6日 伊豆市筏場

2015年3月6日 伊豆市筏場

種類は不明である。

頭部の模様、触覚・尾の形状等が異なる。

3. フサオナシカワゲラ

オナシカワゲラと同じ様な顔立ちをしているのに、胸部にリボン状のエラをもって体に粘液をまとい、身の回りのゴミをつけているおしゃれなフサオナシカワゲラ属も生息する。踊るように泳いで愛らしい存在である。

しかし、この種もオナシカワゲラ同様に山葵の害虫である。

